

瑞浪市都市計画マスタープラン(案)に対するご意見と市の考え方

・募集期間 令和6年11月1日(金) ～ 11月29日(金)

・閲覧件数 92 件

・意見提出人数 1 人(市内 1 人)

・意見数 10 件

いただいたご意見について、適宜抜粋、要約した上、市の考え方について次のとおり公表します。

番号	ご意見	市の考え方
1	<u>都市計画の考え方について</u> 今回のマスタープランも十年以上前のマスタープランと変わらず、「瑞浪市をいくつかの地域に分け都市機能をいくつかの機能ごとに分けて計画しておけば自ずから良い結果になるであろう。」として放り投げられているようである。各地の地域の構想が絡み合ったときに瑞浪市全体がどのような姿になるのかを描いてほしい。	本計画は、ゆとりと豊かさを真に実感し、個性的で快適な都市づくりを進めることを目的としています。 そのため、様々な角度から現在の本市の状況と課題を分析し、長期的な観点から土地利用や都市施設のあり方、各地域のまちづくり方針などを示すとともに、本市の都市計画に関する総合的な指針を定めています。
2	<u>瑞浪地区以外の地区の有機的なつながりの模索について</u> 他の地域の働きを見直したり他の地域との交流を見直したりすることが必要ではないだろうか。さらに瑞浪市全体を東濃地域や中部圏、さらには日本、アジア、世界遠を視野に入れて、温かく静かな状態に置くなり、適度な活動ができるよう周辺の状況を見極めた舵取りが重要である。 今は無理やり中心市街地の再開発を望まずに、まずは陶や稲津、釜戸、日吉の立ち位置や力を見直して、瑞浪市全体がバランスよいまちになるよう努めるべき時ではないか。	本計画は全体構想と地域別構想に分かれて構成され、全体構想に都市の将来像や土地利用等のあり方を、地域別構想で各地域の風土や特性に合わせたまちづくりを定めています。 中心市街地では都市機能の維持と活発な交流を実現するための都市づくりを目指し、それぞれの地域では快適で暮らしやすい生活環境の確保と地域資源を十分活用した個性豊かなまちづくりを図ります。さらに、交通ネットワークの強化による中心市街地への連絡性の向上を進め、安全性と利便性の高い生活基盤の実現と多様な地域との「人、もの、情報」などの相互交流を深めることを推進するとしています。
3	<u>混在の力</u> 瑞浪市は人口が 4 万人を切っており非常に小	各地域の実情に沿った安全・快適で利便性が高い生活環境の維持と活気ある

	さい地方市町村の町である。これが大都市のまねをして中心市街地や住宅を中心とする地域などに細かく分けることにどれほどの意義があるのだろうか。むしろそのようなことをしたら小間切れのまとまりのない町になり、居住・商業・工場のいずれもが中途半端で魅力のない町になってしまうのではないか。 この都市計画マスタープランのなかでは近隣商業地域の拡大や小田や明世地区を工業に力を入れる方針であることは賛成であるが、随所に書かれている「住宅と工場の混在の解消」については反対である。いま一度、混在の意義を考えて都市機能を分散するようなことのないよう努めてほしい。	都市づくりが求められます。 現在と将来の土地利用のあり方等をしっかりと考察し、本市のまちづくりの理念に基づいた適切な土地利用の誘導を図ります。
4	<u>民間の動きに流されないプランニングについて</u> 瑞浪地区の計画では一色方面に近隣商業地域を広げようとしているが、これは民間の動きをマスタープランが後追いしているように見受ける。本来、行政が策定するプランは民間の動きに先んじて「町はこうあるべきだ。」というものの思想に基づいたものでなければならない。 益見地区で住宅系の用途地域の中に準工業地域が島状に入っており大変不自然な印象がある。準工業地域は工業を促す地域なのでトラックが通ったり多少の騒音があったりする地域だが、アクセス道路や周辺のインフラの整備も整備されある程度の規模の作業場が作れる地域である。これを住居系の地域の中に島状に指定することは準工業地域としてのメリットも少なくなってしまうだろう。 さらに小田、山田なども細かく用途地域を指定しているが、全体を準工業や準住居などで大きく色分けをしてもよいのではないか。一つの用途地域の範囲内にある程度の建物の数がなければ地域を分ける意味がない。	現状のまちづくりの課題などを踏まえ、快適で活力に満ちた交流共生都市の実現に向けた都市づくりを目指します。 益見地区、小田地区、山田地区においても、現況の把握と今後の土地利用の方向性を鑑み、「安心・快適で利便性の高い生活環境都市づくり」、「活力ある産業交流都市づくり」(まちづくりの目標)を実現するため、最適な土地利用の区分を設定しています。
5	<u>歴史資源の扱いについて</u> 大湫・細久手の宿場の風景、釜戸から鶴城、一	本市は、魅力ある観光資源や自然環境・歴史文化資源を多く有しています。こ

	日市場へ続く下街道など旧街道はもちろん、近代の産業遺産として陶器工場や小里川の発電所跡など多くの都市施設などがあげられる。これらを観光資源として捉え、地域の活性化に活かそうとする考えかあるようだが、果たしてそれは正解だろうか。歴史的な景観や建物などの文化財はそれ自体で大切にすべきものである。文化財を保護し、文化的な行事を大切に町を歴史をつないでいくということは、私たち市民の務めのひとつである。なんでも金になるものは金につなぐというのではなく、純粋に歴史を継承するものとしての意義を大切にしたい。 歴史を振り返り、地形や地質などの特徴を見直して、過去に作られた街道をインフラの中心に据えて、生活の利便性、産業の効率性、観光資源としての価値、文化の継承のよりどころとして整備することができないだろうか。瑞浪市を瑞浪地区、土岐地区など平面的に分けるのではなく、下街道沿い、瑞浪から陶をつなぐ県道沿い、萩原から恵那へ至る県道沿い、旧 19 号沿いという軸に沿った計画が必要である。	これらの自然環境・歴史文化資源を保全・活用・継承していくことは大変重要であると考えます。 また、市民のみならず多くの来訪者に貴重な資源を感じてもらうことも地域の責務のひとつです。 後世に残すべき大切な資源の価値を再認識し、地域と協働しながら、うるおいのある魅力的な自然・歴史文化都市づくりに努めます。
6	<u>中心市街地の賑わい</u> 中心市街地が再び活性化するためにはどこから外部から人口が入ってくる必要がある。市としてはどこからどのように入ってくると考えているのだろうか。またどのような施策によってどのような人が移り住んでくると考えているのだろうか。 私の考えとしては、「中心市街地はしばらくの間放っておく。」ということである。先に述べた他の地域、土岐地区、釜戸地区、日吉地区、陶地区などが有機的につながったときに、「では瑞浪の中心市街地はどうあるべきか。」を考えればよいし、その時はおのずと答えが出てくるのではないかな。	中心市街地の賑わいづくりや人口減少対策は、本市の重要な課題です。本計画は、主に将来のまちづくりのハード的な整備方針を示しています。 本計画の中でも駅周辺再開発事業などにも触れ、中心市街地での都市機能の維持と活発な交流の実現を目指すとしています。また、その他にも様々なソフト事業を合わせて実施することで、これらの課題解決につなげていきます。
7	<u>道のデザインについて</u> 見た目は同じ一本の道でも、両側に商店が並ぶ道、郊外の並木が植えられた道、昔の街道で	本計画内では、主要な道路を都市の骨格を形成する「軸」として捉え、「広域軸」「地域連携軸」「交流軸」に分類してい

	歴史的な建築物が並ぶ道、新しく工場が立ち多くの車が行き交う道、これらは全て道としての意味あいや利用価値が違う。そしてそれらはそれぞれの意味に応じたデザインがなされるべきである。 また災害時に避難活動や支援活動の軸となる道、火災時に類焼を食い止める道など防災的な意味を持つ道もあるし、今後は病院が土岐市との境にできたためそこにアクセスする道路も防災や市民の健康や生命を守るために重要な道として位置付けられなければならない。 都市の軸として国道19号や中央自動車道が位置付けられているが、これらは多くの枝を張る幹のように地域に枝を伸ばすことで軸としての意味があるのである。	ます。これにより、ある程度の役割を明確にするとともに、地域拠点や交流拠点のつながりも明らかにしています。
8	<u>土地利用分について</u> 都市的土地利用と自然的土地利用が段階的なものとして書かれているが、例えば住宅地と商業地を比較したら、住宅地の方が自然的利用に近いのではないかと。さらに工業地などはさらに都市的土地利用の色合いが強いのではないかと。 また「住宅地」について低層住宅地、中低層住宅地、一般住宅地などを分けているがあまり意味がないのではないかと。コンパクトな戸建て住宅、大きな邸宅、再生古民家、あるいは安価なアパート、高級指向のマンションをどこにどのように建てるか、それは善良な市民の自由な意思に任せるべきことではないかと。	市街地は住宅地、商業地、工業地、沿道利用地区に区分していますが、住宅地、商業地、工業地については同等に都市的な土地利用を誘導する地区と考えています。 また、快適で暮らしやすい生活環境の確保を図るため、住宅地を低層住宅地、中低層住宅地、一般住宅地に区分し、適切な規制を設けます。
9	<u>土地利用区分図について</u> 市街地をオレンジ色に塗られており瑞浪地域に集中しているようだが、実際は稲津地域や陶地域も市街地を構成しており、現在の多くのシャッターが下ろされた本町通りと比較しても決して見劣りのするものではない。釜戸も駅から西への下街道沿いなどは市街地といってもよいだろう。	本計画においては、ある程度住宅用地が密集している地域、住宅団地を住宅地として市街地を設定しています。
10	<u>土砂災害・水害について</u> 「本市は地形の特性上、土砂災害や浸水被害	全国各地で豪雨災害が激甚化・頻発化し、大地震の発生も予測されるなか、本

	の危険性が高く、」とあるが、瑞浪市は江戸時代以前より災害が少ない地域であったのではないか。もちろん近年は気候変動の影響を疑われるような強い豪雨が多く、さまざまな被害が懸念されるが、特に課題となるのは山を削って作った工場地域や、昔からの土地利用を無視して一様に造成した区画整理事業などを行った地域ではないか。	市においても災害被害の防止、軽減に努める必要があります。 公開されている土砂災害、水害のハザードマップからも区画整理事業実施区域に限らず、市内各所の危険性が示されており、必要な施設の整備・補修を行うとともに、瑞浪市地域防災計画に基づく危機管理体制の強化を図り、災害に強いまちを目指します。
--	--	--